

EXHIBITION

Charity Box

EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN

Rassegna Stampa
last update 16-11-2011

L'Isola della Speranza Associazione No Profit
Sede legale : Via Visconti di Modrone 7 20122 Milano
Sede operativa : Via G. Mameli 8 20129 Milano
www.lisoladellasperanza.org
info@lisoladellasperanza.org



L'Isola
della Speranza

ホーム > ライフスタイル > ニュース > 東コレ中は、アーティストによるチャリティーボックスに義援金を！

LIFESTYLE | NEWS

ライフスタイル ニュース | ライフスタイルに関する国内外のニュース。

< [ライフスタイルトップへ戻る](#)



Mr Butterfly

東コレ中は、アーティストによるチャリティーボックスに義援金を！

ミラノ在住の日本人たちが東日本大震災被災地支援のために立ち上げたNPO「L'Isola della Speranza」（「希望の島」の意）がミラノ・サローネ期間中に主催したチャリティー・デザインイベント「Charity Box EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN」が、「Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO 2012S/S」の会期中、日本にて開催されている。同イベントは作品展と募金活動をリンクさせたエキシビションで、第1回の4月のミラノ展では日本の被災地に心を寄せるイタリア国内外のデザイナーとアーティストによりデザインされた50点を超える募金箱が会場を彩った。今回はチャリティーボックスコレクション54点中14点がDHLのサポートのもと日本に巡回。日本でも展示された作品に義援金を募金できる。

展示期間：～10月22日

展示場所：東京ミッドタウン ホールB プレスバイヤーラウンジ
 参加デザイナー&アーティスト：深澤直人、安積朋子、ミナーレー&前田、マルコ フェッレリ、ファビオ・ポルトラーニ 他 計14名
 主催：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構
 協力：L'Isola della Speranza（リゾラ・デッラ・スベランツァ）、DHL
<http://www.charityboxforjapan.com/>

(2011/10/18)

ツイート 14

Mi piace 2

0

RECOMMEND

おすすめ情報



ファッションとスイーツの甘〜いコラボレーション@東京コレ!

「Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO」の期間中、コレクションの主会場となる東京ミッドタウン内のスイーツショップやカフェが東コレとコラボする「Sweets Runway in 東京ミッドタウン」。



2011春夏東京コレクションレポート「DRESSCAMP」。

東京に新しい光をもたらす、明るく軽やかなコレクション。
 (2010.10.27)

Happy Platinum

美しい輝き。旬の3ブランドプラチナ物語。

TOMOKO KODERA



CATHY WATERMAN



YOSHINOBU



Happy Platinum

Fashion Item Search

ファッション・アイテム・サーチ



< [ライフスタイルトップへ戻る](#)

VOGUE

TWITTER

@voguejp

プラチナの本当の姿、知っていますか？
<http://t.co/OIMNdftBT>

本年もありがとうございました。
<http://t.co/hSEz4uoT>

>> FOLLOW US ON TWITTER



Add your comment here

Write a comment...

Charity Box On tour

A newsreport from Geneva

The Emergency Project for Japan launched during the past Milan Furniture Fair is now on show in Geneva

The natural disaster that hits Japan was shocking and devastating. Japanese residents abroad have experienced the dramatic event with a double anxiety: on one hand, the concern about the consequences for their countrymen and country, on the other, the impotence of being far away and not being able to help out by contributing to the rescue of the survivors and the reconstruction of the destroyed cities and villages.

Their initial concern and sorrow for the fate of the victims, their families and their communities have developed into a desire to collaborate in the reconstruction and to help the people return as quickly as possible to a normal life. Milano based Non- Profit organization "L'Isola della Speranza", as well as many Japanese living in Milan, has launched several projects to raise funds to assist people living in the affected areas.

First and foremost among these initiatives: the exhibition "Charity Box EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN" which has been held in April during the Milan Furniture Fair.

Subscribe to
domus

Save up
to 40%

Section
News

Published
22 Sep 2011

Keywords
Charity Box, Japan

Location
Geneva

Domus Network

Add comment 0

Recommend

Tweet 2

0

RSS feed

English or Italian



↑ Top: Marta Laudani e Marco Romanelli, Mr. Butterfly; here: Lorenzo Damiani, Red and White

The exhibition presents a series of boxes for the collection of funds that have been created by several internationally renowned designers from Japan, Italy and other countries. These boxes, as well as being objects of design, are nice "piggy banks" in which visitors are invited to put their donations for the victims of the earthquake and tsunami. Among the 53 designers and artists collaborating on the project, there are many internationally renowned professionals including Riccardo Blumer, Marco Ferreri, Naoto Fukasawa and Denis Santachiara.

The funds raised from donations to "Charity Box EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN" will be allocated to a **Non-Profit organization** active in the Miyagi and Sendai Prefectures.

Contact information:
email: press@charityboxforjapan.com



Marco Ferreri, Ricostruzione



Charity Box On Tour EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN

September 22nd -October 5th, 2011

Intercloisons Showroom

19, rue de l'Arquebuse

Geneva



↑ Tamar Ben David,Wound

Domus Map

Geneva, Switzerland

[View Full Map](#)



| ミラノ360° デザインの国のデザイン事情 [International REPORT]

第14回

デザインの可能性

update 2011.07.13



レポート：荒木宏枝 / プロダクトデザイナー

東北関東大震災後、多くのアーティストやデザイナーが自分たちに出来ることを考え、行動しました。チャリティイベントを通し、デザイナーだからこそ出来ることの可能性を考えます。

■ デザインとチャリティ

3月11日に起こった東北関東大震災の被害と原発事故に心を痛めているのは、日本国民だけではありません。特に原発とそれに伴う放射能汚染は、正に世界中を震撼させ、各国の政治にまで影響を及ぼしています。6月12・13日にイタリアで行われた国民投票では、60パーセントに届く投票率の中、原発建設に関する項目が90%近くに達する圧倒的な支持で否決されました。こういった一連の動きを見るに、感情を行動に移すことを躊躇しないイタリアの国民性を、改めて実感しました。今回のレポートでは、チャリティイベントを通し、商業活動以外にデザインやアートで出来ることの可能性を考えます。

ミラノサローネ期間中、数多くのチャリティイベントが市内で開催されました。最も規模の大きかったものが、山本まさとさんのレポートで既に紹介されたCharitybox for Japanと、トリエンナーレで行われたDesign for Charity。その他にも写真展や募金箱の設置や、デザイナーがメーカーに掛け合い、売り上げの一部を募金に回すなど、個人単位での活動も至る所で見られました。

■ [Charitybox for Japan]

58人のベテランデザイナーが参加した募金箱のチャリティイベント、「チャリティボックス・フォー・ジャパン」。作品のクオリティも高く、連日多くの来場者が訪れた。デザインは【写真6】の様に日本を強く意識したものや、【写真7】のように原発への反発や被災者への追悼の気持ちを表したものの、または【写真8】の作品の様に”コインを投入する機能”にアイデアを凝らしたものなど、実にデザイナーの個性と主張が現れていた。また活動を通して、デザイナー同士の交流や人の輪を広げるきっかけの場にもなった。

<http://www.charityboxforjapan.com/>



【1】 Design for Charityより。東北関東大震災直後ということもあって、日本をイメージした作品も多かった。



【2】 チャリティボックス・フォー・ジャパンのオープニングパーティの様子。会場は前向きな雰囲気にも包まれていた。



【3】



【4】



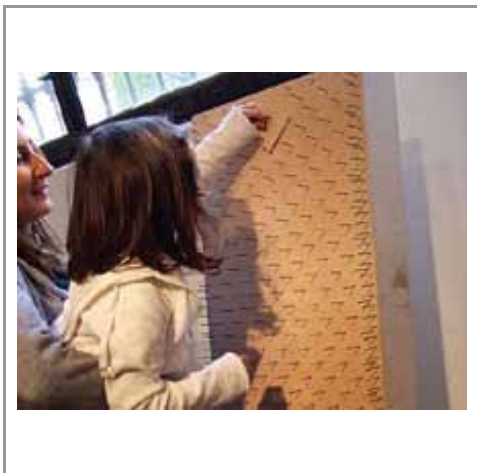
【5】



【6】



【7】



【8】



【9】 2ユーロ以上の寄付をするともらえるクリップ。サローネ期間中に付けて回っていたら、どこで購入できるか聞かれたことも。



【10】 右から参加者の富田さん、菰田さん、林さん。



【11】 オープニングパーティーに来てくれたマッシモ・ジャコン氏（中央）と参加デザイナーの伊藤節&志信両氏。

■ [Design for Charity]

カリム・ラシッドを始め、エリオ・フィオルッチ、パトリア・ウルキオラ、ピエトロ・リッソーニなどのそうそうたる顔ぶれで行われたチャリティエキシビジョン。デザイナーやアーティストがベーシックな椅子を加工し、それぞれ個性溢れる作品に仕上げていた。最終日に作品がオークションにかけられ、その売り上げが世界の恵まれない子供たちのために寄付される。

<http://www.designforcharity.it/>



Gaetano Pesce

ガエターノ・ペッシェによるインスタレーション。真っ黒な十字架に掛けられたのは、イタリア国土がモチーフとなった赤いオブジェ。イタリアに対するアンチテーゼ!?

NEWS
3

イタリア統一150周年を記念した作品が続々!

● イタリア王国の統一が宣言されてから150周年となる今年、多くのデザイナーやブランドが、イタリアにちなんだ作品を発表した。赤・白・緑のイタリア国旗の配色や、長靴形の国土をモチーフとしたプロダクトが多数見られたほか、トリエンナーレ会場でイタリア人デザイナー、ガエターノ・ペッシェが行った独創的なインスタレーション（左）も話題に。今年はサローネ50周年ということも重なり、ミラノの街は大きく騒がれた。

Ingo Maurer

ドイツ人照明デザイナー、インゴ・マウラーの代表作《Zettel》。シェードにイタリアゆかりの人物の肖像や「150」という数字が描かれた特別バージョン。



ZERODISEGNO

イタリアの家具メーカー（ZERODISEGNO）から発表された、カリム・ラシッドのサイドテーブル（左）とアレクサンドロ・メンディーニの本棚（右）。



NEWS

4

デザイナーが考えるチャリティーの形。



HERMÈS

展示パビリオンの設計は建築家・坂井が担当。イタリアデザイン界の巨匠、エンツォ・マリーヤアントニオ・チッテリオらが手がけた上質な家具が人々を魅了した。詳細はp.138。

Baccarat

フィリップ・スタルクやミケレ・デル・ルッキら、世界のトップデザイナー7人とバカラのコラボレーション。それぞれがオリジナルのシャンデリアを発表した。詳細はp.142。



Charity BOX -EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN-

プロジェクトには、安積節子や深澤謙人らも参加。約9,700ユーロ（慈善企業からの寄付含む）の義援金が集まった。今後は、ヨーロッパ各地を巡回する計画もあり。

● 3月11日に日本を襲った、東北地方太平洋沖地震。「ミラノ在住の日本人として、デザイナーとして何が出来るのか」。20年以上、ミラノで活躍するデザイナー、**田田和世**が発起人となり、スタートさせたのが「Charity BOX」プロジェクトだ。これは建築家やデザイナーが義援金をデザインし、それを集めて義援金を開催。そこで義援金を募るといふもの。最終的には国内外から57組が集結、デザインの方で被災地を支援した。



「これで終わりじゃなく、この活動を続けていきたい」と田田さん（左）と会場となったギャラリー（spaziocorsocomo）マネージャーのジャンルカ・ウッドメルさん。

NEWS

5

エルメス、バカラのサローネ本格参入。

● 昨今の世界的な不況の影響もあってか、例年に比べ大規模な展示が少なくなった今年のサローネ。そんな中、注目を集めたのが、エルメスとバカラ。サローネ初出展となるエルメスは、クラブマンシップあふれる新作ホームコレクションをお披露目。一方バカラは、人気デザイナーとコラボレーションした照明コレクションを発表し、インテリア業界に本格参入。この2つのブランドが、華やかに、サローネを盛り上げた。

from ミラノ (Ryoko) - 8 -

世界のデザイナーたちも日本を応援 チャリティ・ボックス展。

[2011.05.16]



ミラノ・サローネ&フォーリ・サローネ。

毎年4月に開催される国際家具見本市ミラノ・サローネ。世界中の建築デザイン関係者が一斉に集い、様々な新しいアイデア、デザインが発表される世界最大規模のイベントですが、本会場以外でも、ミラノ市内のあちこちで展示会や催しが開催され、大変な賑わいをみせます。その名もフォーリ・サローネ（サローネの外）。アイデア溢れるユニークなデザイン、洗練されたスタイルが街のいたるところで見ることができ、一般の人でも日常的にデザインに触れることになります。自然とこんな機会があるミラネーゼ、センスがよくなるのも当然といえば当然？ 羨ましい限りです。夕方にはアペリティフが振る舞われる会場も多く、関係者でなくとも、仕事帰りの人、学生など一般市民も集まってきて大盛況。街中が活気みなぎる一週間となります。



緊急支援プロジェクト チャリティ・ボックス展。

そんなサローネ期間中、今回の東日本大震災に胸を痛めた、ミラノ在住日本人有志によって起案された被災地支援プロジェクトが開催されました。CHARITY BOX EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN - 日本の被災地に心を寄せる国際的に活躍するデザイナー57名が、思い思いにデザインした募金箱のデザイン展です。エキシビション来場者には、各デザイナーがデザインした募金箱を直接利用して、義援金を募金いただくという支援プロジェクト。在ミラノ日本総領事館が後援となり、プレス関係者はじめ、多くの人が来場し

ました。いかに日本が愛されているか！新しい日本へ向けて、世界が応援してくれている気がします。



募金箱といってもいろいろ。

各デザイナーにそれぞれ「募金箱をデザインしてもらおう」というアイデア自体、とてもユニーク。ひとつひとつデザイナーからのメッセージが込められた募金箱は、そのどれもがデザイナーの個性を感じさせ、アイデア溢れる楽しいデザイン。募金箱のイメージが一新されます。気に入った募金箱に、、、と、どれに募金するか悩む姿も。普通の募金より、もっともっと募金したくなる企画ですよね。まさしくデザインの威力。結局、大半の方が複数の募金箱に募金されていたようです。

忙しい中、急な呼びかけにも関わらず賛同したデザイナーは57名！世界的に有名な日本人デザイナー、深澤直人氏ほか、デニス・サンタキアラ氏、バルナバ・フォルナセッティ氏、リカルド・ブルメール氏など著名デザイナーが名を連ねています。日本への思いが込められたチャリティ・ボックス。作品自体がチャリティとしてデザイナーから提供されているので、今後も巡回展を行っていききたいとのこと。これらの素晴らしいデザインが世界を巡って、日本を応援してくれることを願うばかりです。



Shibata Ryoko
しばた・りょうこ

- Web
- Blog

● [記事一覧](#)

地中海の青い海と太陽、陽気なライフスタイルに憧れ、欧。“マンジャーレ”の国イタリアで、さらに食への関心。ワイン好きに拍車がかかる毎日。ファッション&アーの興味を断ち切れず、ミラノでマスター修了しファッション業界へ転向。イタリアの有望若手デザイナーを発掘ロモーションする傍ら、ブランドマーケティングやランスビジネス、バイイング等のコーディネートを行う。ラノにいながら、なぜかフラメンコに夢中。ライフワとなりつつあるこの頃。

チャリティ・ボックス公式サイト

ほかにもこんなたくさんの作品が！



[HOME](#) > [COLUMN](#) > [デザイン・ジャーナル](#) > 日本のためのイベント・展覧会。ミラノ・デザインウィーク中にも



2011.04.27

日本のためのイベント・展覧会。 ミラノ・デザインウィーク中にも

Mi piace 2

ミラノ滞在中、各国のデザイナーと日本の震災について語る時間も多くなりました。今回の滞在では取材の仕事はもちろん、日本の状況を心配してくれている友人たちに会い、直接、お礼を伝えることも大切でした。日本の最新状況について話をするのも。

この「デザイン・ジャーナル」に3月、応援メッセージを寄せてくれたデザイナーたちにも再会することができました。それぞれに新作プロダクトの評判が最も気になる時期であるはずなのですが、そのなかでもやはり、日本のその後を気にかけてくれています。

そうしたミラノ滞在中、市内で開催されたチャリティ・イベントにも出かけてみました。3名のイタリア人建築家・デザイナー、Anna Barbara (アンナ・バルバラ)、Luca Moliani (ルカ・モリナーリ)、Giulio Iacchetti (ジュリオ・イアケッティ) が発起人となって水曜日の夜に開かれた「TOMODACHI」プロジェクト。



会場となったのは、1923年にスケートリンクとしてつくられ、現在はコンサートやイベント会場となっているPalazzo del Ghiaccio。Tシャツにもなっていたグラフィックは発起人のひとり、ジュリオ・イアケッティのデザイン。Photo: Courtesy of Trinity

私が会場に到着できたのは夜10時過ぎとなってしまいましたが、人気DJを司会に迎え、参加者がコメントを順に述べる熱いイベントはまさに佳境。会場ではチャリティのTシャツ販売が続いていました。このイベント、お聞きとなったのは夜12時近くです（私のカメラの電池が切れてしまい、会場写真を掲載できずにごめんなさい.....）

その会場でもお会いできたのが、20年以上ミラノを拠点に活躍しているプロダクトデザイナーの菰田（こもだ）和世さん。やはりミラノ在住のデザイナー、富田一彦さんやファッションデザイナーの林ヒロ子さん、またミラノ在住日本人ボランティアと一緒に、あるプロジェクトを企画していました。「Charity Box EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN（以下Charity Box）」展（4月15日～17日）です。

COLUMNIST

川上典季子

ジャーナリスト

Noriko Kawakami, journalist

デザイン誌『AXIS』編集部を経て、94年独立。ドムスデザインアカデミーリサーチセンターの日伊プロジェクトへの参加（1994-1996年）を始め、デザインリサーチにも関わる。現在は、「21_21 DESIGN SIGHT」のアソシエイトディレクターとしても活動。主な著書に『Realising Design』（TOTO出版）など。

norikokawakami.jp

BACK NUMBERS



[デスクライトのデザインを
マリスカルが手がけると.....](#)



[日本のためのイベント・展覧会。
ミラノ・デザインウィーク中にも](#)



[繊細な大理石、力強い光のオブ
ジェ.....](#)



[ミラノ・デザインウィーク速報。
まずはVenini 90周年の展覧会から](#)



[ただひとつのカードやノートを。
D-BROS「FDB in STATION」](#)



[Love -- for us, from Nacho Carbonell
ナチョ・カーボネルより](#)



[Love -- for us, from Arik Levy
アリック・レヴィより](#)



[Love -- for us, from Gabriele Pezzini
ガブリエレ・ペッツィーニより](#)



[Love -- for us, from Peter Marigold
ピーター・マリゴールドより](#)



[Love -- for us, from Thonik
トニックより](#)

→ [BACK NUMBER](#)



[「アバター」プロデューサーが2D変換の
3D映画に苦言](#)

2011.06.08



[ミラノ発：ここは甘党の天国、](#)



『Charity Box』展エントランス。会場はSpazio Corso Como 9。前回とりあげた10 Corso Comoのほぼ向かいに位置するギャラリーです。Charity Box展主催は非営利団体 L'isola della Speranza。収益義援金はイタリアのINSIEME PER LA FRATERNITA' Onlusを通して宮城県、福島県に送金。Photos: Noriko Kawakami (会場写真)



デザインに興味があるひと、日本に関心のあるひと.....熱心な来場者ばかり。

建築家、デザイナー、アーティストがチャリティ・ボックスをデザインし、制作。会場では作品をそのまま活かして日本のための義援金を募る、という企画です。ミラノ・デザインウィークの準備で皆が目まぐるほど忙しい時期。それでも趣旨に賛同し、睡眠時間をさらに削ってまでして(!) 作品制作に没頭した参加者が多かったとか.....。



[大人のお菓子屋。](#)

2011.06.08



[パリ、ジュ・ドゥ・ポーム美術館でクロード・カーンの写真を見る。](#)

2011.06.08



[ストックホルム発：アート、デザイン、カフェ、大充実の複合ショップ](#)

2011.06.07



[東日本大震災復興支援のためのキャンペーン、「H&M♥JAPAN」のサマーコレクション。](#)

2011.06.07



[ポップカルチャー史に残る猫ベスト20](#)

2011.06.07

ニュース一覧



遊び心ある時計が、夏のおしゃれエッセンス。

Feature

特集一覧



Fashion

色のセンスで遊ぶ、ロンシャンのデイリーバッグ。



Fashion

3.1フィリップ リムで綴る、パリのアバルトマン滞在記。



Fashion

洗練、ポッタガ・ヴェネタのスポーツモード。



Fashion

マルニから始まる、モダン・アスリートの季節。



菰田さん作品『Per una parte della terra ferita（地球の傷ついた場所のために）』。起き上がりだるま式、揺れても立ちなおる地球儀上で日本が示されています。

「ミラノにいる日本人として、デザイナーとして、何ができるのか？と考えました」と菰田さん。彼女をはじめ中心メンバーの情熱が、周囲にしっかり伝わったのでしょうか、急な企画であったにも関わらず、最終的には57名もの参加があったということです。私がこのギャラリーを訪ねたのは、大変な賑わいだったというオープニングの翌日、朝。開場直後から、次々と人びとが訪れていました。



深澤直人さんも参加しています。



ミラノ在住。世界的に活躍している伊藤 節さん、伊藤志信さんの『NINJA TEDDY BANK (忍者ティバンク)』。

「被災地には長期的な支援が必要となるでしょう。私たちの今の気持ちが薄れてしまっ
てはならないと思います。.....デザインの社会性が問われる時代ですが、デザインを通して
何らかの貢献ができるということ、デザイナーである私たちにとっては、そのことがやは
り喜びを感じる事なのです」と菰田さん。

「多くの方々が来場してくださり、巡回しないかという声もかけていただきました。義援
金を日本に届けることが目的ですから、ミラノでの今回の展示後も、場所を変えてこれら
のチャリティ・ボックス展が役に立つようでしたら、本当に嬉しく思います」



富田一彦さんの『CAPTAIN TSUNAMI』。旅行カバンが募金箱に。



左からIrlaria Marelli (イラリア・マレリ) 『RESTI』、Alessandra Baldereschi (アレ
クサンドラ・バルデレスキ) 『KOI-FISH』、Antonio Cos (アントニオ・コス)
『TOURO』。



左手前: Marta Laudani (マルタ・ラウダニ) & Marco Romanelli (マルコ・ロマネッリ)
『MR BUTTERFLY』 Photos: Courtesy of Charity Box (作品写真)。

展示作品からもう少しご紹介しましょう。



R. Blumer, M.Borghi, A. Freire (リカルド・ブルメール、マッテオ・ボルギ、アドリアン・フレイレ) の作品は落ちていくコインがクギにあたって楽しい音を。このような大型募金箱もさまざまに考えられていたのも特色です。



Lorenzo Damiani (ロレンツォ・ダミ)



Lucy Salamanca (ルーシー・サラマン)

卓上にはとても納まらない大きな「ボックス」があれば、募金で重くなっても運びやすいように考えられたデザインも。寄付する人たちの心を描きだしたかのような詩心溢れる表現もありました。どこか温かなユーモアが加味されたものも。



ファッションデザイナー、林ヒロ子さんの作品です

ロンドン在住のデザイナー、安積朋子さんはこう語ってくれました。「震災以降、『こんな時にデザイナーにできることは何?』ということを考えていたので、オブジェをつくり、楽しんでもらってそれが募金につながるチャリティ募金箱のアイデアはすばらしいと思いました。なので、募金をしてくれた人になっこり微笑んでもらえるような仕かけをつくりました」

「もうひとつデザイナーにできることは、メッセージを運ぶ、伝えることなんだと思います。一日も早く、被災地の人たちがふたたび故郷を慈しんで里山に鳥の声が戻るよう、世界が見守って声援を送り続けるよう、鳥小屋にその祈りを託しました」



安積朋子さんの『BIRDSONG AGAIN IN TOHOKU (小鳥のさえずりを東北にふたたび)』。Photo: Courtesy of tna design studio



コインを入れると鳥の鳴き声が.....。

作品を展示して終わり、じゃないプロジェクト。これからもこれらのチャリティ・ボックスが活躍できる機会がありますように.....。

Charity Box

<http://www.charityboxforjapan.com/>

TAGS

[ミラノサローネ](#)、[TOMODACHI](#)、[Charity Box](#)、[菫田和世](#)、[林ヒロ子](#)、[富田一彦](#)、[深澤直人](#)、[伊藤節](#) + [伊藤志信](#)、[安積朋子](#)

RELATED POSTS

2011.04.27 | [CULTURE](#)

< [PREV](#) | [NEXT](#) >

[BACK NUMBER](#)

第19回 Charity Box EMERGENCYPROJECTFOR JAPAN

初めに3月11日の大地震・大津波で被災された方々へ心からお見舞い申し上げます。そして、今なお続く原発事故によって様々な被害に見舞われている方々へ、一日も早く復興へ向けて専念出来る環境が戻って来ることを願っております。

スイスではこの一ヶ月、殆んど毎週どこかで被災した日本のためにチャリティーコンサートが催され、日本人音楽家の方々が中心になって、義援金集めのための演奏会が開かれています。

スイスの電話会社、スイステレコムは3月11日に遡って三月いっぱい、日本への電話代を携帯電話も含めてすべて無料にするサービスで応援してくれました。(ハイチ地震の時にも同様のサービスがありました)

翻ってデザイン屋の自分には何が出来るのか...被災された方々のために、何かをしたいと云う意思だけが空回りして、出口のない思いを抱えたまま、当地在住の日本人有志と共に駅頭に立って街頭募金をお願いしたりしてみました。スイスの隣人たちから受け取った募金額は予想を超える額で、はっきり一桁違うという印象を受けました。

日本が被災した今回の災害が尋常でないことは、スイス人にもしっかり伝わっていることの現れで、少しずつですが世界は確実にひとつに繋がりがつあることを実感したようにも思います。

3.11以降、未曾有の災害を映像で目の当たりにして、日本から離れた土地で、当事者でないことのもどかしさを感じている海外在住の日本人はスイスに限らずたくさんいます。また多くのデザイナーが自分のように、音楽家や舞踏家の持つ機動力を、羨ましく、妬ましく、そして多分ちょっと忌々しく思っていたのも同じだったようです。その証拠がイタリアの友人デザイナーから届いた一通のメールでした。

JDNでも告知されているミラノサローネ2011の“Charity Box” (<http://www.japandesign.jp/salor/11/ex/index4.html#cb>)がそれで、サローネは勿論イタリアのイベントなのですが、今回はこの展覧会にスイスから自分が参加した立場でレポートします。

■Call for Entry "Charity Box" Emergency project for Japan

3月最後の日に、ミラノでデザインをされている友人の菰田和世さんから『Call for Entry "Charity Box" Emergency project for Japan』と署名のメールを受け取りました。それは4月12日から始まるミラノサローネの期間中後半の3日間、自作の義援金箱のデザインを持ち寄って展覧会をしませんか？と云うお誘いでした。

発端は数日前に遡ります。ミラノで活動している9人の日本人が、今回の日本で起こった地震・津波・原発事故の三重苦対して、何か出来ることをしたいと云うことで「L'isola della speranza (リゾラ デッラ スペランザ/希望の島の意)」と云うNGOの団体を立ち上げました。

タイミング的にはちょうどミラノ サローネの会期が近づいていたので、デザインで何かできないだろうか、と云う相談の中、義援金を集めるのであれば、募金箱をデザイナーがそれぞれデザインして持ち寄ったら面白い展示になるのでは？と、菰田さんのアイデアが出たのが28日の午後だったそうです。



L'Isola della Speranza
Associazione No-Profit

2011年3月11日、日本史上最大規模の地震、目を疑うほどの津波、さらに原子力発電所事故による放射能汚染という三重の被害を受けた東北地方。この先どうなるのか想像も出来ない惨状をなし、今後数年は日本経済・産業の混乱が続く事が予想され、放射能汚染に関する問題についても予測を許さない状況が続いています。

ミラノ在住の9人の日本人が「私達に何かできることは？」と自問し、また、イタリア人の友人や知人から「自分たちも何かしたい！」と要望を受け、各種イベントを通して義援金を集めることになりました。被災地の少しでも多くの人たちに「希望」を届けたい、そんな想いを込めて有志の会「L'Isola della Speranza」を結成しました。

集めた義援金は全額、順次最も適切と考えられる地方自治体の福祉課に直接送付する予定です。

L'Isola della Speranza 会員：伊藤 悠、菰田 和世、細井 亜花里、土橋 旬味子、田中 基子、富田 一彦、中田 亜江子、林 ヒロ子、藤田 早苗 (五十音順)

*この活動ははミラノ日本総領事館の後援が内定しています。

【1】 リゾラ デッラ スペランザ



【2】 前夜の準備風景

はたしてこんなに差し迫った時期にそんなことが可能なのか？サローネの期間中はどこもかしこも展示で街中が埋まっているわけで、それでもとにかく会場探しが始まり紆余曲折の末、なんとミラノでも一等地の Spazio Corso Como 9 が会期中の後半3日間を無料で使用することを了解して下さい、義援金箱展参加の誘いを一人ひとりのデザイナーにメールし始めたのが、3月31日だったと云うことです。

■ 感動的イタリア人の反応、そして感動的な本人有志協力

サローネ目前の忙しい時期にも拘らず、声をかけた主に中堅以上のイタリア人デザイナーたちは約9割が作品提供を快諾し、日本人よりも積極的な程の反応だったとのこと。最終的には、57人(グループを含む)が参加を表明し、デザイナーたちは作品制作に入りました。

展覧会は作品がなければ成り立ちません。が、作品だけがあってもほとんど成り立ちません。わずかに二週間の間に法律や保険やクリアしなければならぬことは山ほどあるし、何よりもそこでこう云う趣旨の展覧会が行われることを多くの人たちに知ってもらわなければ、三日間寂しく終わることもあり得るわけです。分けてもサローネの期間中は街中が展示会で埋め尽くされるわけですから、半端なことでは殆どの人々はその存在にも気づいてくれません。

実際にはミラノ在住のジャーナリストやデザイン関係の日本人有志がボランティアで様々な協力し、広報に関して言えば短期間に効果的で十分な告知を可能にしてくれたようです。

14日の夜設営の下準備をし、翌朝搬入が始まると実にバラエティーに富んだ作品が集まり、無事11時開場に漕ぎ着けました。

6時からのオープニングは、後援の在ミラノ日本総領事の挨拶で始まり、会場に入り切れない人々が外へ溢れるほどの盛況でした。結果として多くのイタリア人デザイナーたちの助けを借りて、本当にたくさんの楽しい募金箱が訪れる人を楽しませてくれました。

集まった一つひとつのデザインもさることながら、このように募金箱で展覧会をすることを思いついたそのアイデア自体が、グッドデザインであったことは特筆すべきで、このような機会をつくってくれた「リゾラ デッラ スペランザ」の皆さんと、それを影で支えてくれた日本人有志の女性たちに改めて感謝します。高橋めぐみさん、小林もりみさん、徳永かよさん、田代かおるさん、椎名かおりさん、荒木宏枝さん、どうもありがとうございました。

今後この作品群は、出来ればどこか別の場所で、再び展示できると良いのですが、ご興味のある方は以下へお問い合わせください。また、最終的な義援金の集計は後日以下のサイトで正式発表される予定です。

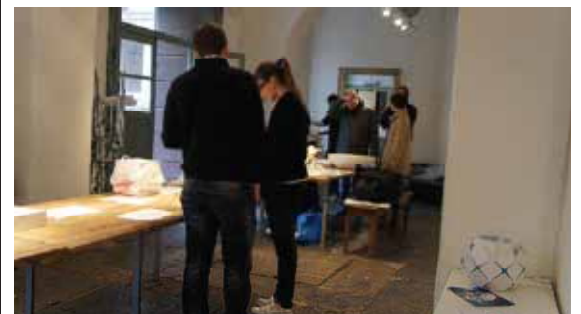
L'isola della speranza : <http://lisoladellasperanza.blogspot.com>
(現在のこのサイトはイタリア語が中心ですが、近い将来日本語のページが加えられます)



【3】 前夜の準備風景



【4】 当日朝の搬入



【5】 当日朝の搬入



【6】 写真：T-max



【7】 写真：T-max



【8】 領事挨拶



【9】 満員の会場 写真：T-max



【10】 満員の会場 写真：T-max



【11】 写真：T-max

		
<p>【12】 by Adriano Design</p>	<p>【13】 by Archipass</p>	<p>【14】 BIRDSONG AGAIN IN TOHOKU by Tomoko Azumi コインを入れると、鳥のさえずりが聞こえます</p>
		
<p>【15】 NEW HOUSE by Enrico Azzimonti</p>	<p>【16】 KOI-FISH by Alessandra Baldereschi</p>	<p>【17】 WOUND (FERITA 傷) by Tamar Ben David</p>
		
<p>【18】 DAL CAMINO by Fabio Bortolani</p>	<p>【19】 by Riccardo Blumer パチンコの釘状板面を、コインが良い音を立てて下の箱まで落ちていきます</p>	<p>【20】 Scalatori del sole (Sun climbers/サンクライマー) by Caiola + Polga</p>

		
<p>【21】 TOURO by Antonio Cos</p>	<p>【22】 11.3.2011 by Carlo Contin</p>	<p>【23】 RED AND WHITE by Lorenzo Damiani</p>
		
<p>【24】 UNTITLED by Giuseppe De Francesco</p>	<p>【25】 JAPAN TRIP by Design Trip Paola Nunzia Carallo & Jacopo Grandis</p>	<p>【26】 Message Collection by Dan Dorel & Lina Ghotmeh & Tsuyoshi Tane</p>
		
<p>【27】 SOLLEVANTE by Vincenzo Fancinelli</p>	<p>【28】 NUCLEARE VADE RETRO by Barnaba Fornasetti</p>	<p>【29】 by Enrico Franzolini</p>



【30】 RICOSTRUZIONE
by Marco Ferreri



【31】
by Naoto Fukasawa



【32】 La solidità e' un gioco
by Alessandro Gaja



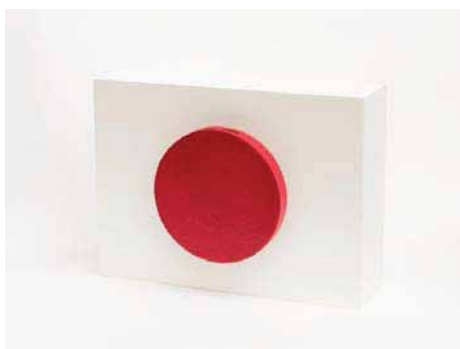
by Diego Grandi



【34】 Unstructured Nuclear Reactor x
by Alessandro Gedda



【35】 100 LUCKY STARS FOR JAPAN
by Gumdesign



【37】



【38】 NINJA TEDDY BANK



【39】 FIRST AID PIG
by Joe Velluto



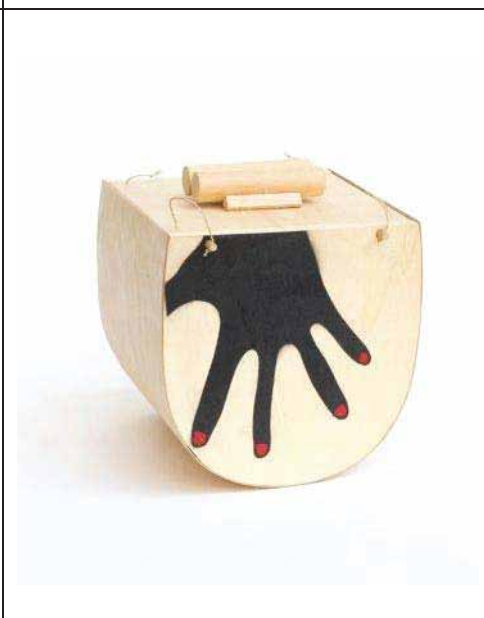
【40】 UNTITLED
by Kings



【41】 PER UNA PARTE DELLA TERRA FERITA
by Kazuyo Komoda



【42】 SOLDINO FOR JAPAN
by Giovanni Levant



【43】 SEMPRE IN PIEDI
by Paolo Lomazzi



【44】 PENSIERO PER IL GIAPPONE
by Raffaella Mangiarotti





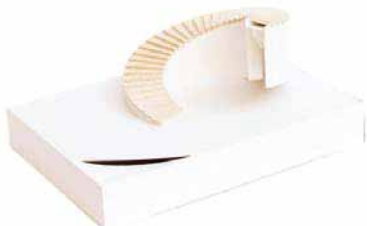






【45】 RESTI
by Ilaria Marelli



【46】 TAPE
by Mauro Merlini



【47】 CIAO JAPAN
by Miriam Mirri

		
<p>【48】 TREASUE POT by Mario Minale & Kuniko Maeda</p>	<p>【49】 FALCONE DEL CUORE by Kaori Miyayama</p>	<p>【50】 OLTRE IL CIELO by Minori Nakanishi</p>
		
<p>【51】 Lorenzo Palmeri</p>	<p>【52】 Scatola in gesso by Donata Paruccini</p>	<p>【53】 DEN-ARI by Chiara Passigli</p>
		
<p>【54】 RAISING FLAG by Matteo Ragni & Maurizio Prina</p>	<p>【55】 MR BUTTERFLY by Marta Laudani & Marco Romanelli</p>	<p>【56】 PER TORNARE A GIOCARE by Lucy Salamanca</p>



【57】 SALVADANAIO
by Denis Santachiara



【58】 TORII
by Kaori Shina & Riccardo Nardi



【59】 Line
by Naomi Sugita



【60】 CAPTAIN TSUNAMI
by Kazuhiro Tomita



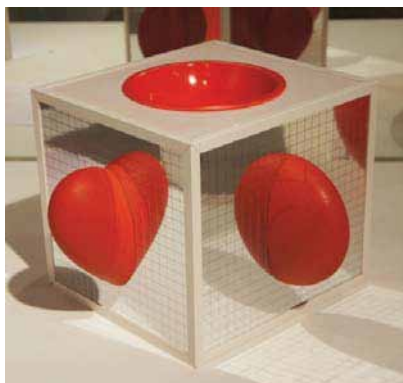
【61】
by Fabius Tita



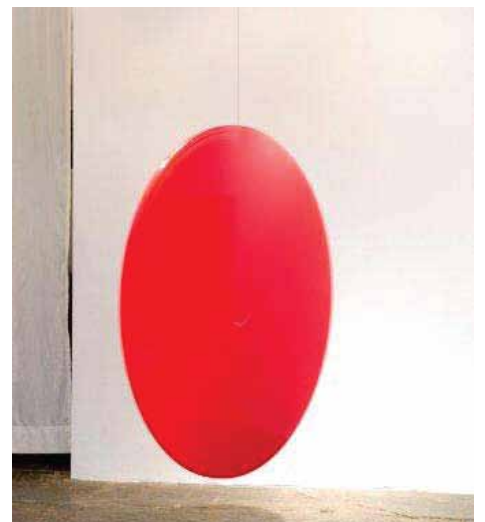
【62】 SALVDANAIO TERRACOTTA
by Paolo Ulian



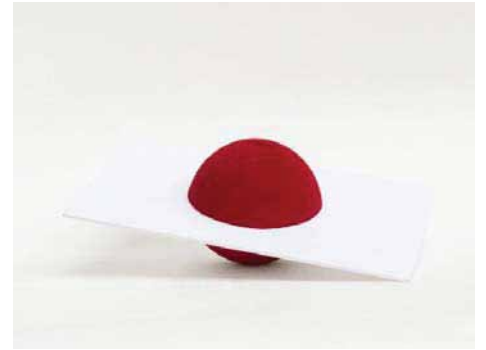
【63】 DONA



【64】



【65】 THE SUN RISE AGAIN



【66】 DROP

by Paolo Zani

【67】 PESCE GATTO

by Marcello Ziliani & Selene Tunesi

【68】 STABILITA'

by Marcello Ziliani & Selene Tunesi



【69】 FRAGILE

by Marco Zito

作品写真：59 と 64 以外はすべて T-max

ミラノサローネ | ミラノサローネ期間中に東日本大...

http://openers.jp/interior_exterior/special/charity...

リカルド・ナルディ、杉田尚美、富田一彦、ふあびうす・ティータ、パオロ・ウリアン、ラファエレ・ヴェントゥーリ、山本まさと、山中一宏、パオロ・ザーニ、マルチェロ・ジリアーニ&セレーネ・トゥネージ、マルコ・ジート



左から、PAOLO ULIAN, ILARIA MARELLI, MARCO FERRERI

Charity Box EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN

会場 | Spazio Corso Como 9
Corso Como 9 20154 Milano
開催日時 | 2011年4月15日~17日

公式ウェブサイト
www.charityboxforjapan.com
一般お問い合わせ
info@charityboxforjapan.com

特集 | ミラノサローネ国際家具見本市 2011

東日本大震災 — 関連記事一覧



RELATED ARTICLES



MOLESKINE | ジュリオ・イアケッティによる新コレクションに期待



EXHIBITION | ミラノサローネにて「TWILIGHT-Tokujin Yoshioka」



連載・Yoko Ueno Lewis | 暮らしノート・第5回「デザイン以前」

RECOMMENDED



adidas | 松浦俊夫、パーソナルカスタマイズシューズ「mi adidas」オーダー



My Own Watch | あなたの腕時計を見せてください



あなたのクルマを見せてください

LINK

- Gallery | FLEXFORM | フレックスフォルムCEO ...
- FLEXFORM | フレックスフォルムCEO ビエトロ・...
- FLEXFORM | 10月28日より待望の「新作」展示ス...
- Gallery | FLEXFORM | 10月28日より待望の「新...
- Panasonic | 2011ミラノサローネ出展空間を期...
- Milano Salone 2011 | 川合将人のミラノサロー...
- Gallery | Milano Salone 2011 | 川合将人のミ...
- Milano Salone 2011 | 川合将人のミラノサロー...
- Gallery | Milano Salone 2011 | 川合将人のミ...
- KARIMOKU NEW STANDARD | ミラノサローネ2011...
- Gallery | KARIMOKU NEW STANDARD | ミラノサ...
- 特集 | 50年目のミラノサローネ2011 開催
- Gallery | CANON | ミラノサローネ展覧会「NEO...
- CANON | ミラノサローネ展覧会「NEOREAL WONDER」
- Gallery | TOSHIBA | TOSHIBA Milano Salone 2...
- Gallery | nendo | ミラノサローネ期間中に個...
- TOSHIBA | TOSHIBA Milano Salone 2011<光・...
- nendo | ミラノサローネ期間中に個展を開催
- Gallery | MOLESKINE | ジュリオ・イアケッテ...
- MOLESKINE | ジュリオ・イアケッティによる新...

FASHION



NIGEL CABOURN | 松屋銀座5階「ナイジェル・ケーボン」の看板娘、山本知佳さん
今年8月31日にオープンした『NIGEL CABOURN...

WATCH&JEWELRY



Airが紡ぐカルティエ『Painted Love』への旋律
2007年にスタートした世界的アーティストによるコラボ...

CAR



TOKYO MOTOR SHOW 2011
インポートブランドから国産メーカーまで、第42回東京モ...

CASA



あたらしい時代づくりに取り組むひとと企業——積水ハウス編
次世代のエネルギーをどうするか。悩ましい問題だ。しかし見...

LOUNGE



特集 | カルチャーの達人に訊く、音楽・本・映画
カルチャーに精通した達人たち、全31名が薦める音楽、本、...

WOMEN



2012-13年秋冬プレコレクション速報！
2012-13年の秋冬コレクションサーキットのスタートも...

SELECTION



selection | OPENERS的バイヤーズガイド
モノと情報の洪水のなかから、良質なものをピックアップ...

Charity Box Emergency Project For Japan

Fuori Salone 2011

EXHIBITION

Charity Box 

EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN

Spazio Corso Como 9, Corso Como 9-Milano

Opening cocktail April 15 18:00-21:00

April 15 11:00-21:00 April 16,17 10:00-20:00

www.charityboxforjapan.com

MM2 Garibaldi, Passante Ferroviario, Bus 37

1/5



Le scosse del terribile terremoto e l'onda catastrofica dello tsunami che l'11 marzo hanno sconvolto il **Giappone**, sono arrivate nel cuore e nell'anima di ogni abitante della terra a ogni latitudine, lasciando un'eco di dolore e sconforto. Ma la forza straordinaria del popolo giapponese ha dato un nuovo significato alla parola futuro, alimentando in ognuno di noi la voglia di aiutare a ricostruire, come testimoniano le mille attività ed eventi e organizzati a sostegno delle vittime.

Anche il **Salone del Mobile di Milano** diventa un'occasione per aggiungere un anello alla catena di solidarietà che collega l'Italia al Giappone. Proprio durante la settimana del design, infatti, si terrà [Charity Box Emergency Project For Japan](#), una mostra evento presso lo Spazio Corso Como 9 dal 15 al 17 aprile. Protagonisti oltre 58 designer, tra i quali anche nomi di fama internazionale,

come Riccardo Blumer, Barnaba Fornasetti, Naoto Fukasawa, Denis Santachiara, che espongono per raccogliere fondi da destinare alla ricostruzione.

La mostra, che ha anche il **Patrocinio Consolato Generale del Giappone**, è organizzata da **L'isola della speranza**, un'associazione molto cara ai giapponesi residenti in Italia, con l'intento di dare una mano concreta al loro popolo, come spiegano le parole contenute nel comunicato stampa:

«I giapponesi residenti in Italia hanno vissuto i drammatici eventi con una duplice ansia: da un lato la preoccupazione per le conseguenze per i loro connazionali e il loro Paese, dall'altro l'impotenza di chi è lontano e non può in alcun modo dare una mano, contribuire al soccorso dei sopravvissuti e alla ricostruzione dei paesi distrutti.

Guardare alla televisione le immagini di quanto stava accadendo è stata per noi una vera angoscia. All'iniziale preoccupazione e al dolore per la sorte delle vittime, delle loro famiglie e delle loro comunità, è subentrata ora la sentita volontà di collaborare alla ricostruzione, al ritorno in tempi brevi ad una normalità di vita per bambini, uomini e donne».

I fondi raccolti dalle donazioni a Charity Box (di cui potete avere un'anteprima in questa gallery) verranno spediti alle prefetture di **Miyagi** e di **Fukushima** tramite l'Onlus **Insieme per la fraternità**. Design e solidarietà: un binomio perfetto in nome della ricostruzione. Noi ci saremo. Ti aspettiamo.

Info:[Charity Box Emergency Project For Japan](http://www.charityboxforjapan.com)

www.charityboxforjapan.com

Orari mostra: 15 aprile dalle 11.00 alle 21.00 - 16/17 aprile dalle 10 alle 20

11 Aprile 2011, Désirée Paola Capozzo

alias [Desiree_Capozzo](#)



EXHIBITION

Charity Box

EMERGENCY PROJECT FOR JAPAN

Rassegna Stampa
last update 16-11-2011

L'Isola della Speranza Associazione No Profit
Sede legale : Via Visconti di Modrone 7 20122 Milano
Sede operativa : Via G. Mameli 8 20129 Milano
www.lisoladellasperanza.org
info@lisoladellasperanza.org



L'Isola
della Speranza